

## 第2章 調査・研究活動

### A. 一般研究調査

#### 1. 産民官一体型防災カルテの作成（豊田市を事例として）

正木 和明

平成16年度豊田市より「豊田市防災カルテ作成業務委託」を受けて行ったものである。従来、ハザードマップ、防災マップなるものは数多く存在するが、これらの情報は自治体が一方的に配信するものであり、またそれらを防災行政に十分生かしきれていない。そこで、以下の防災カルテを作成した。その特徴は、「数量化」、「繰り返し実施」、「産民官一体型」である。具体的には6項目からなるレーダーチャートで防災力が評価され、視覚的に示される。この結果、①数量化することで防災力を客観的に評価できる、②どの部分（地域）の防災力がどの程度不足しているかが数値化され対策すべき項目の洗い出しが可能になる、③繰り返し行なうことで防災対策の効果を評価できる、こととなった。また、産民官が連携して実施することにより地域の防災力向上が期待できる。防災カルテは以下の3部からなる。

- (1) 家庭防災カルテ：設問19に対し選択方式で回答。家庭で記入。6項目（ハード対策、医療、避難、ソフト対策、地域、備蓄）で評価する。
- (2) 地域防災カルテ：危険度6項目（地盤、液状化、建物、火災、人的被害、予測震度）と防災力6項目（家屋の耐震、自主防災組織、消防、安全施設、医療、家庭の防災力）について地域住民と自治体で調査し評価する。
- (3) 企業防災カルテ：6項目（人的対策、情報、金銭、物的現状、物的対策、人的訓練）で評価する。簡易防災力評価シートにより企業が自分で評価する。詳細防災力評価シートによりさらに専門家の評価を受ける。詳細は2節に述べられている。

家庭および地域防災カルテを用いた調査は豊田市の衣母、堤学区において実施した。家庭カルテ回収枚数は4,838（配布枚数7,922、回収率61%）であった。得られた結果を図1、図2に示す。

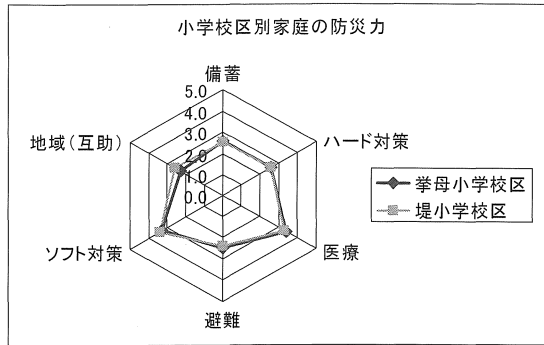


図1 家庭の防災カルテの例

危険度評価	防災力評価
<p><b>危険度解説</b></p>	<p><b>防災力解説</b></p>
<p>自治区平均の予測震度が震度6弱以上と非常に大きく危険度は高い。人的被害危険度も高くなっているが、人口密度の高さが要因である。火災危険度が低いのは、木造の建物が少ないためである。</p>	<p>施設や医療機関にめぐまれており医療、安全施設、消防の評価が高くなっている。しかし、住民サイドが行う、家庭の防災対策や家屋の耐震、自主防災活動が低いいため地域防災力が全体的に下がる。</p>
<p><b>総合解説</b></p>	
<p>防災施設も多く、環境にはめぐまれているようだが、予測震度が大きいので地震時に身を守るためにも住民がもっと防災対策をすることが望まれる。</p>	

図2 地域の防災カルテの例